



平成5年定年退職。少しでも地域のお役に立てばと町内の生涯学習委員、神社総代を務め交流を深めてまいりました。

健康が一番、体力づくりに挑戦、太極拳を始め、16年続けてきました。

中国伝来の武術太極拳、「ゆったりと動き深い呼吸で経路を開き、気の流れを良くする」、種とも拳・剣・扇と多彩です。楽しい仲間との練習、各地交流会出席、年なりに頑張っています。

平成21年7月吉日

白井 敬郎



第42回 ゴルフ愛好会コンペ報告



順位	氏名	GRS	NET
優勝	小池 利男	79	71.8
準優勝	坂田 修	76	72.4
3位	萩原十四夫	75	72.6
4位	小林 初男	80	72.8
5位	鈴木 清一	85	73.0
6位	大竹 操	84	73.2
7位	高木 和彦	84	73.2
8位	水戸 友康	88	73.6
9位	島田 十助	88	73.6
10位	大橋 浩	88	73.6

8月4日(火)に大間々カントリー倶楽部に於いて、第42回菱の実会ゴルフ大会を実施しました。

前日までは一日雨の予報で今回は合羽を着てのプレーを覚悟していましたが、当日になると予報が良いほうに外れて、朝は曇り空でしたがスタート前には晴れ間も出てきて一寸蒸し暑かったです。まあまあコンディションで実施されました。雨が降らなかったことでスコアメイクできた人が多く20位までの人はグロス88以下で、珍しい現象で竹沢宏さんがグロス74ハンデキャップ+1.2とプラスハンデになってしまったこともありレベルの高い大会でした。そんな中で小池利男さんが激戦を制して2回目の優勝となりました。ご協力に感謝いたします。

次回の大会は'09年10月6日に計画します。

【 雑記帳 】

【 ウイズ・エイジング 】

朝日新聞7月11日付天声人語で、いい言葉を見つけました。「ウイズ・エイジング」。切り取って紹介させていただきます。年を取るのも悪くない。使い込むにつれ 深い味も出てくる。「老いとともに」

鍋にせよ万年筆にせよ、使い込んだ道具には、体の一部になったような安定がある。愛着もわく。同じことが「人生」にも言えるようだ。作家の田辺聖子さんが老いの日々を、「人生そのものが、よく使い込んで身に合ってきた」と書いている(『楽老抄』)▼六十路の後半の一文である。その年の夏には、もらったうちわに「古いぬれば、メッキもはげて、生きやすし」としたためたそう。老いと道づれ、あるがままにという、人生の達人らしい肩の力の抜けようがいい▼それに一脈通じよう、「ウイズ・エイジング」という考え方を先ごろの小紙で知った。加齢に抗する「アンチ・エイジング」の逆で、訳せば「老いとともに」となる。高齢医学が専門の杏林大教授、鳥羽研二さんが提唱している▼若さは素晴らしい。だが年を取るのも悪くない。顔のしわは年輪の証し。記憶力は衰えても、季節や身辺への感性はむしろ豊かになる。鳥羽さんによれば、70歳の言葉は20代の2倍以上もあるのだという▼厚顔可憐の老境は、はじめてきたが、おもしろい……。90歳になった漫画家やなせたかしさんは、近著の『たそがれ詩集』(かまくら春秋社)につづる。老化をむやみに嫌ったり落胆したりせず、かといって背も向けない。鳥羽さんの理念に通じるものがある▼一つの言葉から膨らむイメージがある。「アンチ」と尖らぬ「ウイズ・エイジング」の穏やかさは、深まりゆく人生への敬意も呼びさます。高齢社会のきびしい現実の中でこそ、広まってほしい言葉である。

天声人語

鍋にせよ万年筆にせよ、使い込んだ道具には、体の一部になったような安定がある。愛着もわく。同じことが「人生」にも言えるようだ。作家の田辺聖子さんが老いの日々を、「人生そのものが、よく使い込んで身に合ってきた」と書いている(『楽老抄』)▼六十路の後半の一文である。その年の夏には、もらったうちわに「古いぬれば、メッキもはげて、生きやすし」としたためたそう。老いと道づれ、あるがままにという、人生の達人らしい肩の力の抜けようがいい▼それに一脈通じよう、「ウイズ・エイジング」という考え方を先ごろの小紙で知った。加齢に抗する「アンチ・エイジング」の逆で、訳せば「老いとともに」となる。高齢医学が専門の杏林大教授、鳥羽研二さんが提唱している▼若さは素晴らしい。だが年を取るのも悪くない。顔のしわは年輪の証し。記憶力は衰えても、季節や身辺への感性はむしろ豊かになる。鳥羽さんによれば、70歳の言葉は20代の2倍以上もあるのだという▼厚顔可憐の老境は、はじめてきたが、おもしろい……。90歳になった漫画家やなせたかしさんは、近著の『たそがれ詩集』(かまくら春秋社)につづる。老化をむやみに嫌ったり落胆したりせず、かといって背も向けない。鳥羽さんの理念に通じるものがある▼一つの言葉から膨らむイメージがある。「アンチ」と尖らぬ「ウイズ・エイジング」の穏やかさは、深まりゆく人生への敬意も呼びさます。高齢社会のきびしい現実の中でこそ、広まってほしい言葉である。

「無理しない、こだわりすぎない、よくばらない、つつばらない、頃合いに、融通をきかせる、ほどほどに……いいかげんがいい。先のことを憂うより、今を楽しんで生きる。お金や地位より、いい人間関係。自分を生かせる場を持つことが大事……」 鎌田 實 著書より (篠崎 記)